栄養治療実施計画 兼 栄養治療実施報告書

患者氏名		患者ID		性 : 男・女	年齢	歳	入院日	年	月	日
病棟	主治医			NST患者担当者			初回回診日	年	月	日
NST回診 実施者名	医師		看護師		薬剤師		管理栄養士			
NST回診 実施者名	歯科医師 歯科衛生士		臨床検査技師		PT・OT・ST MSWほか		NST専従者 氏名			
現疾患			褥瘡	なし あり()	嚥下障害	なし あり()	前回回診日	年	月	日
その他の 合併疾患 ^{※1}			感染症	なし あり()	社会的問題点	なし あり()	回診日	年	月	日
身長	cm	現体重	浮腫 有□ 無□	BMI:	標準体重 (BMI=22)	kg	通常時体重			kg
栄養評価	主観的栄養評価	アルブミン (g/dL)	リンパ球数 (/mm³)	ヘモグロビン (g/dL)	中性脂肪 (mg/dL)	トランスサイレチン (TTR: プレアルブミン) (mg/dL)		総合 (栄養障	合評価 害の私	
	良・普通・悪	検査日 月日	検査日 月 日	検査日 月 日	検査日 月 日	検査日 月 日	検査日 月 日	良・軽度・中等度・高度		
前回との比較	改善·不変·増悪	改善・不変・増悪	改善·不変·増悪	改善·不変·増悪	改善·不変·増悪	改善·不変·増悪	改善・不変・増悪 改善・不変・増悪			悪
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·										
経口栄養	□ 普通食 □ 該当無し □ 咀嚼困難食 □ 嚥下調整食		経腸栄養 ^{※2}	□ 該当無し □ 経鼻(□ 胃瘻(□ 腸瘻()	経静脈栄養	□ 末梢静脈栄養 □ 中心静脈栄養 (鎖骨下・ソケイ部・P.	□ 該当無し PICC・リザーバー)		
	を投与法の推移 ※養 → 経口栄養、			□無	() → ()					
投与組成・投与量(該当無しの場合口にチェックを入れること)										
	水分量 (ml/日)	エネルギー (kcal/日)	たんぱく質・アミノ 酸(g/日)							
前回栄養管理 プラン※3	口無	口無	□無	□無 	□無 	□無	□無	□無		
実投与量	□無	□無	□無	□無	□無	□無	□無	□無		
投与バランス ※4	□無	□無	□無	□無	□無	□無	□無	□無		
新規栄養管理 プラン	□無	□無	□無	□無	□無	□無	□無	□無		
栄養管理上の 注意点・特徴 ※5										
活動状況•評価										
他チームとの 連携状況		支援チーム なし)	褥瘡対策チーム (あり なし)		感染制御チーム (あり なし)		緩和ケアチーム (あり なし)	その他のチーム (チーム)		
治療法の 総合評価 ^{※6} 【] 4 体的栄養評価: 改善度 5・4・3・2・1 (改善項目: 2. 血液学的栄養評価: 改善度 5・4・3・2・1 (改善項目: 3. 摂食・嚥下状態: 改善度 5・4・3・2・1 (改善項目: 3. 摂食・嚥下状態: 改善度 5・4・3・2・1 (改善項目: 3. 摂食・嚥下状態: 改善度 5・4・3・2・1 (改善項目: 3. 摂食・薬・免疫力: 改善度 5・4・3・2・1 (改善度 5・4・3・2・1 (公 5 (公										

- ※1: 褥瘡・嚥下障害・感染症以外で、栄養管理に際して重要と思われる疾患を優先的に記載すること。
- ※2: 投与速度と形状(半固形化の有無など)を含めて記載すること。
- ※3:初回時には記載を要しない。
- ※4:必要に応じ患者及び家族等に確認し、提供している食事・薬剤のみではなく、間食等の状況を把握した上で、体内へ入った栄養量を記載するよう努めること。
- ※5: 栄養管理の上で特に注意を要する点や特徴的な点を記載すること。
- %6: 栄養療法による効果判定を総合的に行うこと。【 】内には、 $① \sim ③$ のいずれかを記載すること。
- ※7:評価項目中変化があった項目を選択し、程度を「5:極めて改善」「4:改善」「3:不変」「2:やや悪化」「1:悪化」の5段階で記載すること。また、改善項目の詳細も記載すること。なお、必要に応じて項目を追加しても構わない。
- ※8:治療評価時の状況として「入院中」「転院」「退院」のうちいずれか一つを選択し、栄養治療の効果についての補足事項や詳細を記載すること。特に、「転院」又は「退院」の場合にあっては、患者及び家族に対して今後の栄養管理の留意点等(在宅での献立を含む。)について丁寧な説明を記載するとともに、転院先又は退院先で当該患者の栄養管理を担当する医師等に対し、治療継続の観点から情報提供すべき事項について記載すること。